

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年6月29日（月）18時29分～18時55分（26分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）遅くなりまして済みません。本日「就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム」の第2回会議を開催いたしました。昨年末に取りまとめました、行動計画の取り組み状況についてのフォローアップを行ったところです。冒頭の私からの発言はお聞きになられたとおりであります。後ほど詳細は事務方から説明させますので、特に以下の4点について私から申し上げます。

まず就職氷河期世代、それからとりわけ女性の雇用環境が悪化していること。今こそ支援を着実に進めていくことが重要と。これはコロナの影響を受けてということでもあります。就職氷河期世代がさらに厳しい状況になっていると。特に子育てのため一旦は仕事を離れて求職活動をやめている、いわゆる非労働力人口となっている、その女性への支援を進めていくことが重要ということでもあります。具体的には雇用のマッチングとか職業訓練の推進などに加えて、正規雇用ということもさることながら、多様な働き方の促進も重要であるということが1点目です。

2点目に、新型コロナの感染症によって、例えば対面による支援が困難となってきています。したがって今後テレワークとか遠隔教育といった新たな生活様式を前提とした支援が重要であると。特に訪問型、対面型を前提としないオンラインでの支援とか、インターネットによる相談体制とか、そういったことが重要であると。そうしたことができるようにするための環境整備、その支援も必要であるということが2点目です。

3点目に、慢性的に不足する支援人材、支援をする人材の育成が重要であると。社会とつながるための継続的支援も必要であるということが3点目。

4点目。個人情報保護を理由に、関係の支援機関が連携するのを困難にさせている実態があると。この個人情報保護についての新たな枠組みが必要ではないかという御意見がございました。これは常々言われているとおり、全国1,700の自治体それぞれに、別々の個人情報保護の条例など枠組みがある中で、今

回のコロナの感染者に関する情報の共有もそうなんですけれども、なかなか個人情報保護というものがあって難しい面が出てきています。これは諮問会議などでも議論されてきていますので、対応を急ぎたいというふうに考えています。

こうした議論を踏まえまして、政府全体で取り組んでいる事業の運用改善や見直しを行っていくこと、あるいは今、交付の2次募集に向けての最終的な調整を行ってまいりますけれども、3次募集も行いますので、そういった交付金の活用においても、きょういただいたような御意見も参考にしていきたいというふうに思います。そしてまた来年度の概算要求に向けて、関係府省においても、きょうの御意見を踏まえながら知恵を絞っていただくようお願いをしたところであります。

いずれにしましても、今回のコロナを機に、この就職氷河期世代の支援が後戻りすることないように、さまざまな関係者とともに連携して取り組んでいきたいというふうに思っています。

そうした中で、高市大臣から地方公務員の中途採用予定について報告がございました。冒頭私から国家公務員についてのことを申し上げたところでありますけれども、高市大臣からは就職氷河期世代を含んで、全国の地方公共団体において、令和2年度から4年度にかけて合計5,567人の中途採用予定があるということであります。そのうち特に氷河期世代に限定した採用予定は、3年度で689人であるというふうに報告がございました。いずれにしても、国においても地方公共団体においても、積極的に採用に取り組んでいくということであります。

私からは以上です。

(問) 2点伺います。1点目は就職氷河期支援で、昨年の骨太方針で今後3年間で正社員を30万人という話を掲げられました。コロナの影響で全体的に求人数が減っていると思うんですけれども、その目標達成は可能かとお考えでしょうか。また、東京や埼玉県で感染者が増えてきています。繁華街へ出かける人などに対し、政府として控えるよう、要請などの実施についてのお考えはありますでしょうか。

(大臣) まず就職氷河期世代についてであります。3年間で正規雇用者を30万人ふやすという目標、これは堅持したいと思っております。今の状況は大変ですけれども、決して後戻りさせることなく、関係者と連携して取り組んでいきたいというふう

に考えています。

そしてこの目標と同時に、以前から申し上げておりますとおり、そもそも社会とのかかわりが今薄い状況の方もおられます。引きこもっておられる方もおられます。それぞれの、お一人お一人の事情に寄り添いながら、事情に応じた多様な働き方。きょうもたくさんの方の御意見をいただきました。正社員になるのはもちろんすばらしいことですし、この30万人の目標に向けて取り組んでいきたいと思っておりますけれども、それぞれの、お一人お一人の事情に応じて、今よりもよりよい状況、処遇になるように取り組んでいきたいと思っておりますので、さまざまな可能性、柔軟な働き方、こうしたものも同時に追求していきたいというふうに思います。30万人は堅持して、目標に向けて努力していきたいというふうに思います。

それから感染状況についてのお尋ねであります。昨日は東京60名、北海道17名、神奈川10名、埼玉8名ということを含めて、全国の新規感染者数は合計で113名ということで、かなり高い水準で、5月9日以来の水準となっております。専門家の皆さんとは今日も分析を行いました。御指摘のように埼玉県知事も会見をされたようでありますが、埼玉、千葉など東京の近県において、東京都とのつながりがあると考えられる事例が多数発生しております。

その中の幾つかについては、全て感染経路が特定されているわけではございませんけれども、夜の街に関係している方が多いということもわかってきています。その趣旨をきょう埼玉県知事も述べられたと思っておりますし、東京との関連が5割程度あると会見で言われたというふうに聞いております。また、直近の一、二週間では、豊島区や大宮などの繁華街を抱える地域、あるいは秋葉原などに関連する複数の事例が、都県をまたいで発生している可能性もわかってきています。

本日の東京都の新規感染者は58名ということで、きょうも高い数字であります。そのうち夜の街関連が32名ということであります。直近の1週間の新規感染者、陽性者の数が363名でありますけれども、そのうち夜の街関連が157名ということであります。夜の街の関係者を中心に増加傾向にあるわけでありまして、また、直近1週間のアンリンク、経路がわからない割合も、移動平均で約52%となっているところであります。

日々、専門家の皆さんと意見交換を行っておりますけれども、

こうした状況を緊張感を持って注視しているところであります。正直、嫌な感じですが。こうした状況の分析をしっかりと進めていきたいと。リンクがどういう可能性でつながっているのかいないのか、どこかにクラスターがあるのかないのか。これの分析を今進めてもらっているところでありますし、各県とも連携して今分析を急いでいるところであります。あすこうした状況について小池知事と協議を行うこととしております。状況の分析、そのあたりの意見交換を行いたいというふうに思っております。

それから関連してでありますけれども、福岡であります。福岡の高島市長が本日私のところに来られまして、報告をいただきました。中洲の地区の繁華街の接待を伴う飲食店の従業員を対象に、行政検査としてPCR検査を実施してきているところであります。幅広く呼びかけて行ってきたところであります。6月27日の土曜日に、146名に対して集団検査を実施して、本日結果が判明しました。陽性者はその中には含まれないということ。報告がありました。本日までに合計で234名の検査結果が出ており、陽性者は出ていないということ。であります。

先日来申し上げておりますけれども、新宿では吉住区長がリーダーシップを発揮して地道に対策を取られています。そして福岡も高島市長のリーダーシップでこうした取り組みがなされています。ぜひこうした取り組みを東京都内の繁華街、あるいは埼玉の繁華街、宇都宮でも出ていますので、こういったところでぜひ広げていきたいというふうに考えています。

いずれにしても、二次感染をとにかく防止しなければいけません。夜の街からお客さんなり、あるいは家族なりを通じて、やがて高齢者に行く。院内感染は、今は入り口のところで入院される方、診察を受けられる方をチェックしていますから、かなりの部分でそうした取り組みが効果をあらわしているんじゃないかと思っておりますが、高齢者施設、こういったところに波及すること、リスクの高い高齢者に波及することを懸念いたしております。とにかく二次感染を防止しなきゃいけないということ。でありますので、まさに夜の街の対策は対策の肝になるというふうに考えています。

そうした中で、あした、小池知事と協議をしたいというふうに考えておりますけれども、私から皆さんへのお願いはこちらであります。これはもう一般的でありますけれども、とにかく手

洗い、マスク、消毒、換気、これは徹底して。これはみんなです。私も含めてみんながとにかく手洗い、マスク、消毒、換気、これをぜひ徹底していただきたいというふうに思います。

それからそれぞれの事業者においてはガイドライン、これを徹底していただくと。人と人との距離、隣のテーブルとの距離、アクリル板あるいはフェースガード。マスクは当然です。消毒も当然です。これは全ての基本の4つの柱です。手洗い、マスク、消毒、換気は当然みんながしなきゃいけない。さらに事業者の皆さんにはガイドラインを徹底していただく。かかるコストは持続化補助金で支援をしっかりとできますので、ぜひ徹底していただきたい。

それともう一つ、これもぜひお願いをしたいとしたいと思いますけれども、体調が優れない方、悪い方はとにかく外出を控えてください。バーやクラブなど接待を伴う飲食業の従業員の方も、調子が悪ければ休んでください。ぜひ会社に行くのも、調子が悪ければ休んでいただく。やめていただく。それからこうしたところに行く人も、ぜひ体調が悪い方は控える。外出をとにかく控える。これが何より大事であります。喉に違和感がある、味覚、嗅覚が何かちょっとおかしい、ちょっと熱がある、少しでも体調がおかしければ、こうした方はとにかく外には出ないようにしていただきたいとしたいと思いますし、こういう方は都県をまたいでの移動はとにかく控えていただくということをお願いしたいと思います。

きょうの3つであります、一つは基本中の基本の4本柱。手洗い、マスク、消毒、換気、これを徹底していただく。当然ガイドラインの業種ではこうしたこともやった上で、それぞれの事業体に応じてガイドラインを徹底していただく。そして体調が少しでも悪い方は外出を控えていただくということをお願いしたいと思いますというふうに思います。

御質問には以上です。

(問) 小池都知事と明日会談をされたいということだったんですけども、東京の感染者数を見ますと、御案内のように57人、60人、58人と高止まりが続いているんですけども、今までPCR検査に対し、前向きに捉えているという言い方を大臣はされているんですけども、あした都知事と会われることについて、局面が変わってきたという理解でよろしいのでしょうか。

(大臣) 都知事からも会って話をしたいというお話がございま

した。これだけの数が出ています。ただ、これまでも申し上げているとおりに、半分ぐらいと言っていると思いますが、あるいは半分以上かもしれませんが、夜の街関連で、これまで積極的にPCR検査を受けていただいた結果、陽性者ということと、そして幅広く新宿区を中心に呼びかけをしている、その結果のあらわれでもありますので、今のこの数字をもって、現時点で緊急事態宣言を発出するとかそういうことではありません。

昨日来申し上げていますとおりに、病床もしっかり確保されていますし、緊急事態宣言を発出しなきゃいけないような状況であるとは現時点では考えていませんし、このことは専門家の皆さんとも日々確認をしてきているところでもあります。きょうもそうした分析をしながら確認をしてきているところでもあります。

ただ、申し上げたとおり、少しそれが広がってきている感じがあります。秋葉原であったり千葉であったり埼玉であったり、あるいは豊島区であったり、少し広がってきている感じ。どこかに何かクラスターのホットスポットがあるのかどうか、今それを追いかけていっているところでもありますので、何か関連が見えてくると、そこへの対策ができるわけですがけれども、少し東京都が今分析されていることと、我々が専門家の皆さんと議論していること、あるいは埼玉県や千葉県を初めとして神奈川県、隣県と事務的にもいろいろと分析を進めていますので、そうしたことを突き合わせて、今後の対策を協議したいというふうに思っています。特に夜の街対策、ここはやっぱり肝でありますので、ここにどう対応するか、これのお話をしたいというふうに思っています。

（問）20代、30代の方の感染が8割近いというのは、重症者が少ないというので救われている面もあると思うんですが。若い人が死ななかつたり重症化しないということは、結局これに対して有効策がないとしたら、逆にこのエリアやこういう店は40歳以上は行っちゃいけないといいますか、この病気の特質からして、年齢によってある程度そういう守り方をしないと、やっぱり世代間で難しくなっちゃうような。あまりいいことだと思いませんが、そういうことは議論になっておられるでしょうか。

（大臣）最も心配しているのは、やはり高齢者の方々に及ぶこととあります。特に先ほども申し上げたとおり、高齢者施設に

これが行きますと、一度に重症化するリスクが高まりますので、何としましてもこれを今の状況の中で封じ込めていく、その努力を続けていかなきゃいけないと思っています。

若い人たちは症状がないから安心だということではなくて、若い人の中にも、実は夜の街関連でもアンリンク、経路がわからない方がいます。これは感染者が出た店で濃厚接触者なり店の人たちに働きかけて、PCR検査を受けてもらっているのと同時に、何か症状があって、申し出てこられてPCR検査を受けておられる方もおられますので、全てが全て無症状というわけではありません。症状が出ている方もおられます。

それから無症状だからといってうつさないわけではありませぬので。全体でいうと5人のうち4人、つまり8割は誰にもうつさないといわれていますが、5人のうち1人が、10人で2人が誰かにうつすということでもありますので、誰がうつさないのか、誰がうつすのか、どういった特徴がある人がうつすのか、うつさないのか、まだこれがわかっていませんから、とにかく若い人から、そしてそこから家族であったりお客さんであったりさまざまなかたちで、やがては高齢者にそのリスクが及ぶことを懸念しているところであります。

ですから高齢者の皆様は、もう既に御自身のリスクも、特に基礎疾患をお持ちの方とか高齢の方は、こういったこともわかってきていますから、それぞれに対策を取られてきていると思います。先ほど申し上げた手洗い、マスク、消毒、換気、あるいは私の両親なんかもそうですけれども、できる限り人との接触を避けるようにしている。

そうした努力をされていると思いますが、やがては何らかのかたちでそういった方々に及ぶことを本当に懸念していますので、何とか若い人たちが多から安心だということではなくて、これ以上広がらないようにするために今、感染経路、どこから感染をしたのか、これがまだ点でしか見えませんので、少しずつ線につながり、どこかにクラスターあるいはホットスポットがあるんじゃないかということ、今追跡を行っているところであります。そうしたことの突き合わせを、あしたにでも小池知事と行いたいというふうに考えています。ありがとうございました。